外国人への社会教育に係る社会教育委員からの意見について

参考資料

令和7年1月30日（火）に開催された「令和６年度　八千代市社会教育委員会議」において，「外国人への社会教育について」を議題とし，社会教育委員から以下の観点を中心に様々な意見をいただきました。

・外国人への社会教育における課題とは何か。

・どのような事業を実施すべきか。

・日常生活の中で外国人への社会教育の必要性を感じた経験があるか。

・団体で活動をされている方については，外国人の参加状況や，その際の対応事例について。

【意見要旨】

A委員

〇どのような社会教育を提供すべきかについては非常に難しい問題である。我々が提供したいことと，彼らが日本について知りたいこと，その双方の意見を聞く必要がある。しかし，今の段階では明確な答えがあるわけではない。

〇日本には様々な言語を話せる人がいる。英語ができる人は多く，最近では韓国語を話せる人も増えている。しかし，学校現場ではそれでも対応しきれない部分があり，校長先生方もお困りのことが多い。

〇地域の力を借りることが解決策の一つになるのではないか。現在，市の広報も充実しており， 1日に何度も市からLINEでも情報が届く。こうした情報手段を活用し，「地域の協力者を募集します。」と呼びかければ，多くの方が協力してくださる可能性があるのではないか。

B委員

〇子供よりもその保護者の方が地域に溶け込むのが難しいのではないか。もし社会教育の分野で，こうした課題に対応できるような取り組みがあるのであれば，もちろん子どもたちへの支援も大切ですが，大人の方を対象にして交流できるようなものがあれば良いのではないか。

C委員

〇日本に永住しようとする外国人の増加とともに外国人の児童生徒が急増し今後も増加し言語対応が課題となっている。子どもの言語習得能力は高いが，教育的言語としての習得には多くの時間が必要。教師の人員不足も課題となっている。

D委員

〇八千代市内も数年前と比べると外国人を多く見かけるようになった。

日本の教育だけでなく道徳やマナーの教育も必要。外国人だからといって特別視せず，お互いに共有し学びあうことが必要。

E委員

〇なぜ日本に来たのか目的や理由や日本が外国人を受け入れる際の条件，その背景などが知りたい。

F委員

〇例えば，子どもが野球やサッカーなどのスポーツクラブに所属することは親の選択によるものであるため，外国人にとって社会教育等への参加に関しても日本人と同じように機会を享受することは難しいのではないか。外国人向けに特化した勧誘や外国人向けの社会教育のコミュニティがあれば連携や情報の共有もしやすくなるのでは。

〇生活の中で文化の違いによる問題は，お互いの相互理解が十分にできていないことが大きな要因だと思う。日本人は，自分たちの常識を当たり前だと考えがちだが，視点を変えれば異なる価値観があることを理解し，相互理解ができるような活動があると良いなと思う。

外国人の親御さんたちがそうした感覚を持てば，お子様にも繋がっていくと思われますし，その中でコミュニティが形成されていき，お互い何かがあっても言いやすいような社会ができたらと思う。

G委員

〇小学校も図書館を活用し，在籍している外国人児童の母国語の本を学校に置いたりするなどした方がいいと思った。

〇公民館でボランティアが日本語教室を開いており，通う人数が増えている。図書館や公民館では外国人の方々のニーズに応じた事業をさらに展開できるのではないかと思っている。例えば食文化をテーマにしたイベントなどよいのではないか。

H委員

〇見た目や文化により近寄りがたいと感じてしまうこともあるが，地域共生社会の実現を目指すのであれば，外国人も地域の一員として受け入れるべきだという視点が重要だと考える。

〇社会教育の役割は重要で，公民館や国際交流協会，民生委員，地域の自治会等，様々な団体を活用し日本人が意識を変えるための取組が必要。簡単に解決できるものでなく，一人ひとりが知恵を出し合いながらじっくりと取り組む必要がある。